

# ヒブワクチンの任意予防接種への助成について

(2009年9月1日現在・自治体キャラバンまとめ)

※ヒブワクチンの任意予防接種への助成を実施している市町村はなかった。

市町村名	ヒブワクチンの任意予防接種の費用を助成する制度を設けてください。
4 一宮市	医師会等とも協議して、検討して参ります。
6 半田市	ヒブワクチンについても、予防接種の安全性や有効性等も含め、国の予防接種対策の動向を見守り、公費助成は、今後、総合的に判断していきたいと考えています。
7 春日井市	ヒブワクチンが、乳幼児の感染症予防対策として有効な手段の一つであることは、本市としても認識しています。ワクチンを接種することで、疾病の重篤化する状況に効果が期待できるとされ、法律に基づかない任意の予防接種ですが、各医療機関での接種が増えていくことが見込まれます。このようなことからワクチンの供給・接種費用など、情報の収集等に取り組み、乳幼児の健康保持、感染症による重篤化やまん延防止の観点から、国の動向も注視しながら公費助成について検討していきます。
16 犬山市	ワクチンの有効性・安全性、経費等、国の動向や研究結果をみながら、検討していきます。
18 江南市	ヒブワクチンの接種方法は生後2カ月から1歳までに3回接種し、その後1年後に1回接種します。計4回の接種が必要となりますが、輸入ワクチンのため、供給量が少なく安定供給ができないことが課題であります。助成については供給体制が整備できた段階で検討したいと考えます。
22 東海市	ヒブワクチンは小児の細菌性髄膜炎を予防するワクチンで、諸外国の多くで接種がされていますが、日本では平成20年12月にようやく解禁されたワクチンです。そのため、現在のところ、任意接種となっています。 ヒブワクチンは日本では製造されておらず、輸入に頼っているため、ワクチン不足で、ワクチンが手に入りにくい状況と効いております。 市が公費負担をし、多くの方に接種していただくためには、まず、ワクチンが潤滑に流通される必要があります。そのためには、ヒブワクチンが定期予防接種に位置づけられる等、国のヒブワクチンに対する施策が大きく影響します。 今後、市といたしましては、引き続き、国の動向や近隣市町村の状況等情報収集に努め、予防接種事業を進めて参ります。
31 田原市	助成について、今後、県下市町村の動向を踏まえながら検討してまいります。
32 愛西市	ヒブワクチンの任意予防接種については、日本では定期の予防接種として位置づけられておりませんので、現段階では実施は難しいと考えております。今後、国の動向や近隣市町村の動向も見ながら検討していきます。
34 北名古屋市	ヒブワクチンの助成は、現在考えていませんが、子育て支援の一環として、今年度からインフルエンザ(1歳～15歳[中学3年生])の接種費用を1回1,000円、1人2回まで補助しています。
41 扶桑町	制度の必要性は高いですが、物理的にワクチン量が限られることと、健康被害に対する国の救済制度が不十分な為、非常に難しい課題となっております。
46 蟹江町	接種の対象者、方法、ワクチンが供給できるかなど検討が必要と考えております。
47 飛島村	現在、村内医師等の意見を聞きながら、助成制度について検討中です。
51 美浜町	今のところ情報収集をしている。今後に向けて検討していきたい。
54 吉良町	今後、財政事情等を勘案し、検討します。
56 幸田町	全国で19自治体が助成していると認識しています。今後県下、近隣市町村の状況を見極めながら検討したいと思います。
58 設楽町	現状を考慮し、今後検討する。
59 東栄町	検討していきたい。
60 豊根村	現在検討をしております。